



平成 30 年 3 月 20 日 (火)  
2018 年 No.11 3 月号  
横浜市立 新羽 中学校  
☎542-1680 FAX 541-1038

【HP】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nippa/> 【メール】 [l2-nippa@edu.city.yokohama.jp](mailto:l2-nippa@edu.city.yokohama.jp)

## ● 第 40 回 卒業証書授与式 学校長式辞 ●

校長 宮本 昌季

晴れやかな節目となる今日という日を、卒業生の皆さんはどのような気持ちで迎えたでしょうか。卒業証書を手にして、地域の方のご支援で設けられた新羽の坂を歩いたとき、どんな思いを抱いていたのでしょうか。中学校のご卒業、そして義務教育の課程の修了、誠にありがとうございます。また、保護者の皆様、ご家族の皆様方、お子様たちが立派な巣立ちの日をお迎えになったことを心からお祝い申し上げます。さらに、新羽町連合町内会会長 大谷 佐一 様をはじめご来賓の皆様方には、ご多用の中を本校卒業式のためご臨席を賜りまして衷心より感謝申し上げます。本年度は、創立 40 周年記念の年として過日には、立派な記念式典及び祝賀会を設けることができました。日頃からの皆様方のご理解とご支援の賜物と強く感じております。ちなみに、本日の会場を飾っている紅白幕は、その際に寄贈していただいた記念のものです



さて、私たち人間がこころ豊かに生きるとはどういうことであるのかについて本日は、考えたいと思います。言い換えますと、人はこころで生きるということについて皆さんに伝えていきたいと考えます。

たとえ話ですが、部屋の中でおじいさんが「おーい」と声を出すと、長年おじいさんに連れ添ったおばあさんは「はい、新聞」とか「はい、お茶」とおじいさんのいる部屋まで持ってきます。「おばあさん、新聞を取ってください」「はい、おじいさん新聞をもってきました」という会話がなく、「おーい」だけで済むこのコミュニケーションは一体どういうことなんでしょうか。一つ同じ家で長い人生の大半を一緒に過ごしてきた老夫婦の「いつも」のタイミングでの「いつも」の言語生活なんですね。日本の人々が、「いわずもがな」とか「以心伝心」とか「阿吽の呼吸」などと言って表す言語環境のことです。これは、おじいさんの「横着」なふるまいであり、おばあさんに対して失礼な行動であるということで、おばあさんの怒りを買ってしまう事態にはなりません。むしろ、円満で、和やかな人間関係をこそ表している一場面としてとらえることができます。

それでは、和やかな人間関係を成立させる条件とは何か。お互いがその人物の人柄をつかんでいて、円滑な関係を成り立たせるキーポイントとは何でしょうか。

富山大学の教授で、呉人恵（くれびとめぐみ）さんという先生が「ありがとうと言わない重さ」という文章を書いていて、東アジア北部に位置する国、モンゴルの人々の考え方や価値観について興味深いことを述べています。

要約的に、少し引用してみます。「日本人にとって、『ありがとう』ほど、使い込んだ革製品のように手触りのいい言葉もないでしょう。わたしたちはよく、『以心伝心』などといっ

て、お互いの意思を無言のうちに伝え合うことをよしとしています。『ありがとう』に関しては別のようです。相手が何かをしてくれたとき、それが自分にとって『ありがたい』ものであるかどうかはさておき、とりあえず、『ありがとう』と言っておかなければ、どうにもおさまりがつかないのではないのでしょうか。ところが、モンゴルでは『ありがとう』に値する言葉『バイルララー』はあまり聞かれず、相手の好意に対する感謝の気持ちをやたらに言葉にするのはよくない、それよりもむしろ、その恩を胸に刻み、将来恩返しをすることによってこそ、表すべきだとモンゴルの人々は考えています。一瞬、横柄にも思えるその態度が誤解を生むことにもつながりました。」などと書かれています。

「ありがとう」や「サンキュー」を多用する日本人やアメリカ人などに比べ、なんて愛想のない人たちなんだろうという印象が否定できなかった筆者は、だいぶ後になって知り合いのモンゴルの方からしみじみとした恩返しを受けて、深く感動します。そこに生まれたものは、民族の壁を越えて、人のところに収められている感謝と優しさの気持ちに触れた喜びです。



日本人の言語文化では、人にある行為を規制する場合、「やめてください」という言い方とは別に、「ご遠慮ください」という表現をすることがあります。遠回りな言い方を選んで、なるべく人のところにダメージを与えない配慮をするわけです。家族の会話でも、夫である男性が、妻である女性に「今日の夕飯は何にする？お母さん」などと言い、妻である女性は「私はあなたの妻であって、母ではありません」とは言いません。自分たちの子どもからみた表現をあえて取ることでアットホームな効果を引き出しています。また、国語学者の金田一 春彦さんは、例えば、家庭の中での会話として「お茶を入れましたよ」ではなく「お茶が入りましたよ」という言い方の特性を指摘します。お茶は誰かが入れなくては入らないし、勝手に入らないのですが、恩着せがましく言わないという心配りがそうさせていると述べています。



ここまでの例に基づいて考えられる「円滑で和やかな人間関係」を成立させるキーポイントは、自ずと明らかになったと思います。たとえ、言葉では言い足りていなかったとしても、感謝や優しさに満ちた潤いのあるところが存在していることが、言葉を補って余りあるものになっているということです。

一方、現代社会の課題の一つに、思慮を欠く言葉遣いということがあります。SNS やライン、メールといった一見便利なコミュニケーション・ツールが、大変やっかいなコミュニケーション・トラブルを招き、人権侵害や犯罪に係わる事案を導く場合もあります。顔の見えない関係での無造作で乱暴な表現が多くの原因になっていることが多いのではないのでしょうか。人はここで生きています。そのところは、様々な表現手段を通して伝わっていきますが、こころのひだまでを読み取れる、きめ細かな言葉遣いに出会うと、本当にその人と話していること自体がとても麗しく、感銘深いものとなるはず。豊かなこころは、豊かな言葉で伝わっていくと思います。

変化の激しい現代社会において、若い皆さんが、こころ豊かに、たくましく生き抜いてい

くために、中学校卒業の本日、人はここで生きることについてお話させていただきました。卒業生の皆さん、いつまでもお元気で。以上をもちまして、学校長式辞といたします。

## ● 校長の授業見学日誌 2017 まとめ ●

～ 向上心のある教師と真剣に学ぶ生徒たち ～

教員の本務は、授業です。しかも、より分かりやすい楽しい学習を常に組み立て、より質の高い授業へ改善更新し続けることが使命です。したがって、自分のスキルアップにより、生徒の学力がきちんと定着し、より向上していくことを目指します。1年間、全教科全学年全学級を教科担任に即して授業見学を行い、一人ひとりの先生がこの命題に真剣に取り組んできたことを実感します。

そして、新羽中学校の生徒一人ひとりの授業に臨む姿勢が真剣であり、落ち着いていることがよい授業を作るための大きな力になっています。生徒総会や生徒会役員選挙の際に示す集団としての秩序的な行動、公正な発言力をみて、「きちんとした学校生活」を営む生徒像が容易に浮かび上がります。その土台には、家庭の教育力、小学校6年間の指導が生きているに違いありません。

本年度の3年生は中学校入学以来、きれいに右肩上がりにその学力を向上させてきました。全国または、横浜市の学力学習状況調査結果がよくそれを証明しています。今後とも小規模校としての長所を生かし、指導の工夫改善を重ね、一人ひとりの生徒のためによりよい授業が展開できるように努めていきたいと思えます。

ご家庭や地域の皆様方におかれましても、授業を積極的に参観し、生徒や教師の生き生きとした姿を確かめていただければ、この上なく幸いに思います。

## ● 「新羽小中合同学校運営協議会」を設置 ●

学校と家庭や地域が連携して、子どもたち一人ひとりの教育に資するべきことは、教育基本法等の上位の理念法規にも謳われています。横浜市教育委員会は、「まちとともに歩む学校づくり懇話会」や「学校・家庭・地域連携事業実行委員会」等により、その実現を図ってまいりました。一方に、家庭や地域の皆様が「学校運営」に積極的な参画を行い、「教育活動」を合議的に推進する一歩踏み込んだスタンスを示す「学校運営協議会」の設置を積極的に拡大してまいりました。

私たち新羽小・中学校は、それぞれが「まちとともに歩む学校づくり懇話会」を別個に営んできた経緯を振り返り、地域の皆様にとってもより合理的、機能的な連携組織を目指して、「新羽小中合同学校運営協議会」を平成30年4月1日より設置するに至りました。

小中併せた全体会を年度初めと終わりに持ちますが、年間には小学校部会、中学校部会として、これまでの取組を精査して行ってまいります。協議会委員を横浜市教育委員会より委嘱させていただき、一定の規則のもとに学校教育、地域活動等について協議、実践していただきます。また、学校・地域コーディネーターの皆様には、今後ますますお力を発揮していただくこととなりますのでよろしくお願いたします。詳細とともに、後日改めまして周知を図ってまいります。

